

株式会社 IGA

PL  **TFORM**
B A S K E T

鉄道維持管理を快適にするRRシリーズ

イタリア製 鉄道用高所作業機械

RR9-200

RR11-250

RR14-400

RR19-500

今回展示車両は日本に1台しかないRR9-200を展示

株式会社 IGA

- 弊社は2022年に設立した企業です。主にJR西日本管内の構造物の検査業務を行っております。近年では他社鉄道企業様から伐採などの依頼をいただくようになり高所伐採業務も行っております。弊社は2023年10月にイタリアPLATFORMBASKET社製の軌陸車RR9-200を導入しました。導入の経緯は弊社が構造物点検業務での効率化と利便性を求めた中で最も日本の鉄道業界の維持管理に適していると確信し導入しました。
- 主となる鉄道路線では深夜でも貨物などの列車が走っており、1時間程度しか作業時間がない時もあります。あらゆる業種が時間と日数をかけて維持管理を行っていますが、現業務では工事車両などは特定の場所からの搬入出が決まっており毎回車両を指定の場所から出し入れを行う事が当たり前となっております。作業時間の管理をしていく中で現場からの行き帰りの移動時間も含めて作業を安全に遂行しなくてはなりません。
- 鉄道環境エリアが限られている日本だからこそ弊社所有のRR9-200の様なコンパクトな軌陸高所作業機がある事で作業効率を大幅に上げる事が可能になります。例えば単発作業ではなく、連日作業を要する場所などでは沿線沿いにあるスペースへの仮置き計画が可能です。前日終えた作業箇所付近からスタートできる事で毎回搬入出していた時間を実作業に使える事で効率化が図れます。そんな素晴らしい車両であることを皆様に会場でお伝えできたらと思います。
- 弊社は2026年から正式にPLATFORMBASKET社の正規販売店を始めました。これから全国の鉄道企業様へ製品の良さを発信していきます。

日本の軌陸車高所作業車と何が違うのか？

- 展示車両RR-9はクローラー仕様・
- 他のクローラー軌陸との違い車体旋回軸とブーム旋回軸が独立仕様により鉄輪とクローラーが対角線になることで踏切内でのクローラー舵を切ることなくスムーズに進入載線することができる。
- またリモートコントローラー仕様でオペレーター自らが車輪とレールの位置を確認出来ることでスムーズな載線が可能となりました。
- 複線区間での隣接線路横断も可能により移動時間の短縮により作業時間の確保が容易になります。
- 起伏箇所（レール）横移動もブームに備え付けてある自動レベリングシステムにより勾配（25°）に応じ中心軸が水平を維持することで機体の安定性を保ち安全に横移動が可能です。
- 車両がコンパクト設計長さ4068mm高さ2676mm縦幅1244mm対角収納時1974mm
- 機械重量 2900kgと軽量なのにブーム高さは1435mmでは9.5m 1067mmでは約9.0m 作業半径4.0m
- 沿線環境次第では仮置きなども可能で作業短縮に繋がります。
- 線路曲線区間でも同様にカントの傾きに応じて作業床内は常に水平を維持します。
- カント数値 1435mm MAXカント200mm 1067mm カントMAX105mm
- RRシリーズは高所作業軌陸なのにアウトリガーを必要としない
- ブームを上げた状態でも軌道走行が出来る（作業走行速度2km/h）通常走行10km/h
- 独自のブレーキシステムにより滑らかに静止・停止時の衝撃が無くバスケットの揺れを緩和します
- 仕様タイプはエンジン仕様とリチウムイオンバッテリー仕様の2タイプ





PL / **TFO** **RT**
B A S K E .

販売機械 車両

販売車両



PL / **TFORM**
B A S K E T

PLATFORM BASKET

販売車両

